

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年 1月 15日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム夢の森 福島県
-------------------	-------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>高懸佳代子</u> ヒアリングを行った職員数 (1)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0772500344
法人名	医療法人社団日新会
事業所名	医療法人社団日新会 グループホーム夢の森
所在地	福島県喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5 (電話) 0241-28-5855
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成21年1月15日

【情報提供票より】 (平成 20年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 16日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3	要介護2	1
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83歳	最低 74歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	入澤病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>集落から少し離れた環境に位置しているが集落の自治会に加入し、地域住民としての活動をしている。開設して8年になるが地域の行事に招待されたり、多様なボランティアの訪問があり地域との交流が行われている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を運営推進会議や職員会議で話し合いをしたが具体的な改善までつなげることができなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が評価全項目について目を通し話し合った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>民生委員と区長がメンバーになっており外部評価の結果を運営推進会議の議題で取り上げ話し合った。災害対策について話し合い行政への働きかけの足がかりになるなど建設的な話し合いがされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時など話しやすい雰囲気を作っているが家族の意見や苦情はなかなか上がってこない。家族会があり行事などで家族同士の交流も見られるのでその場で意見を引き出す工夫をしてほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>集落の自治組織に加入しており、区長や民生委員を通して交流がある。地域の行事に招待されたり地域の子供や老人クラブ、コーラスグループなどの訪問があり地域との交流は行われている。</p>

2. 調査報告書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は掲げられているが、地域密着型としての役割を踏まえた事業所独自の理念は作られていない。	○	何故理念が必要なのか、何故地域密着型の役割があるのか原点から話し合いをして期限を設けて事業所独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会で理念について話し合っている。が日々の実践に理念が十分に生かされていない。	○	わかりやすい言葉で事業所独自の理念を作り上げ、その理念に添って振り返りながら日々の実践をしてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会しており回覧板が回ってくる。地域の祭りや伝統行事、保育所のお遊戯会に参加したりそば打ちやコーラスなどのボランティアも多く、地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に参加し話し合いをしている。改善に向けての話し合いはされているが具体的な改善にはつながっていない。	○	改善計画シートなどを作り課題達成時期など明記し改善にむけて具体的な取り組みをしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開催されている。外部評価についての話し合いや防災についての話し合いもされ、相談できる場になっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回担当職員が利用者の家族に生活の様子や健康状態など書き込んだ便りを送付している。預かり金の出納も出納簿で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり面会時などの家族の要望や意見を聞くようにしているが運営に関する意見はあまり出されない。	○	利用者のホームでの暮らしを支えていくためには家族の役割もあることを家族に理解してもらえるよう働きかけてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐため職員の異動や退職など極力ないように努力している。異動などがあった場合は早めに利用者との信頼関係を作るよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホームの職員たちが合同で2ヶ月に1回研修会を行っている。	○	職員の仕事への士気が高まり意欲を持って仕事に取り組めるよう、計画的に外部研修の機会を確保してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報交換や交流をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として利用者から俳句づくりや伝統行事など教えてもらう場面がたくさんある。職員は利用者と支えあう関係になるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や思いを把握するために生活史ノートや支援経過、介護記録ノートに記述している。が一覧性がなく共有しにくい。	○	利用者の思いや情報など随時書き込み、すべての職員で共有できるようセンター方式の活用も含めて思いや意向の把握に努めてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録を職員で共有し、本人や家族の要望を聞きサービス担当者会議や申し送り時に話し合いをして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングをもとに家族や本人と相談しながら見直しを行っている。状態の変化があった場合は随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関との連携を図りながら、受診は職員が同行し適切な受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援についての要望は今のところないので検討していない。	○	どうしたら重度化や終末期の対応ができるのか、という視点で職員間での話し合いを行うとともに、利用者の重度化や終末期ケア、看取りをどうするか法人としての方針を作るよう検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応は見られなかった。名前の呼び方やトーン、言葉遣いなど日常的に注意している。記録物などの個人情報は適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の生活の流れはできあがっているが、レクリエーションや余暇時間の過ごし方は一人ひとりの希望で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けなど職員と一緒にこない後片付けは当番制で行っている。職員と一緒に会話をしながら食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中時間帯のみの一日おきの入浴体制になっている。	○	法人として利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴が可能になるよう人員増などを検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意な家事や園芸を楽しんでやってもらっている。読書が好きな人もいる。俳句づくりが得意な利用者で作った俳句をホーム便りに掲載し喜んでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的に散歩やドライブ、買い物に出かけている。希望で実家に行ったりもする。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの見守りに努め、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練をしている。夜間想定でやっているが近所の人たちは参加していない。	○	近所の人たちの協力を得ながらの避難訓練もやってほしい。災害時の食料、飲料水、物品などの備蓄も検討してほしい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は把握されている。栄養士から献立などの指導を受けバランスの取れた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花や装飾品が置かれてあった。不快な音や臭いもなく適度な明るさと穏やかさであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持込に対して家族は遠慮気味で居室への持込は少なかったが、家族の写真など飾ってあった。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 夢の森

記入担当者名 管理者 高懸 佳代子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。